

令和元年度 第4回 木材需給会議 資料の概要

1. 一般経済の動向 (資料1)

2019年10～12月期の実質GDP成長率は、前期比-1.8%。消費増税と天候不順の影響により個人消費が急減、設備投資の減少、輸出の不振等による。1～3月期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で景気が大きく下振れし、前期比-1.0%と見込む。この結果、2019年度の実質GDP成長率は、前年比-0.1%と2014年以来5年ぶりにマイナス成長に陥る見込み。

新型コロナウイルスの感染拡大は「2019年度いっぱい続き、感染がピークアウトして収束に向かうタイミングは2020年度初めまでずれ込む。ただし、ゴールデンウィーク頃までに拡大懸念はほぼ沈静化し、東京オリンピック・パラリンピックの開催までには完全に収束する」と想定。

4～6月期は東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて個人消費を中心にイベント効果が高まると期待。輸出も夏場にかけて海外景気を持ち直しが進み、徐々に回復していくと見込む。

年度後半は、イベント効果の剥落により景気が一時的に停滞する可能性があるが、建設需要等により下支え。2020年度の実質GDP成長率は前年比+0.2%、2021年度は同0.9%に持ち直すと見込む。

2. 住宅着工見通し (資料2)

2019年の住宅着工戸数の累計は、前年比-4.0%の90.5万戸に減少。

利用関係別の内訳をみると、持家住宅、分譲住宅一戸建及び分譲マンション(以下「持家系」という。)の着工戸数が、それぞれ前年より増加したが、貸家は前年比-13.7%と二桁の減少率で、貸家の減少が全体に影響した。

持家系の住宅着工戸数の増加は、国内の景気回復及びそれに伴う人手不足や働き方改革を背景とした給与所得の増加、住宅ローンの低金利の影響等により比較的安定的に推移した。

これに対して、貸家の減少は、2015年1月からの相続税制改正に対する税制対策への需要が一巡したことや、貸家住宅の建設に対する金融機関の貸出姿勢の厳格化が続いていること等があげられる。

足下の住宅着工戸数は、米中の経済摩擦激化に伴う輸出の減少等による製造業の景況感の悪化等を反映し、持家系、貸家とも弱い動きとなっている。コロナウイルスの拡大による経済への影響も懸念。

2019年10～12月期のGDP一次速報に基づく、シンクタンク(12機関)の予測によれば、2019年度の住宅着工戸数は平均89.0万戸、2020年度は同84.7万戸と前回よりも下方修正された。

3. 住宅業界の動向 (資料3)

住団連が実施の住宅会社の「支店、営業所の営業責任者に対する住宅業況調査」の結果は、戸建注文住宅の2019年10月～12月期の受注実績は、7月～9月期に対しマイナス27ポイント、金額はプラス3ポイント。棟数は消費増税に伴う反動減により大きく見通しを下回った。

また、住団連の「低層住宅に関する経営者の景況感調査」では、対前年比の総受注戸数は、マイナス77ポイント、金額でもマイナス79ポイントと3四半期連続でマイナスとなった。

これに対するコメントとしては、「戸建・リフォームを中心に消費増税の影響から前年比マイナスとなった」、「戸建の集客減が全体の棟数、金額の減少に影響している」等、前年同期の増税前の回復傾向に対し、今回の調査では、回答した全企業が棟数、金額共に「悪くなった」と回答している。

弊社の戸建住宅の受注は、社内でのキャンペーン効果もあり対前年比ではプラスを維持したが、住宅ローン減税の優遇対象となる物件の着工期限(年内完工が必須)も迫り、また、新型コロナウイルス感染症に伴う大幅な経済の減速懸念等もあり、受注環境は厳しい状況が続くと推察される。

4. 木材業界の動向 (資料4)

販売量について、12月は、製造部門で前月より減少、1月、2月は、販売量、仕入量について流通部門、製造部門共に減少。販売価格、仕入価格はいずれも変わらず。

3ヶ月後の相場予想に関しては、米材は、12月は製材部門、流通部門ともに弱含みで、1月、2月は保ち合いの予想。南洋材、北洋材(欧州材含む)は、保ち合い。国産材は、流通部門は保ち合い、製造部門

は一部弱含みの予想。建材は、保ち合いで推移すると予想している。

プレカットは、非住宅物件が堅調に推移しているが先行き不透明。都市部以外の仕事の減少がみられるとのこと。また、コロナウィルスにより中国の工場生産に影響が出ており、国内の供給に影響が出始めている。

5. 木質バイオマスの動向（資料5）

本年度第3四半期（10－12月）の燃料調達量は、未利用木質が約38.6万絶乾トン（前期比94%）。一般木質は33.1万絶乾トン（前期比99%）で、そのうち海外チップ・ペレットは前期並みであったが、国内針葉樹チップが前期比20%以上伸びている。農作物残さは、前期比76%。

燃料調達量の割合を見ると、未利用木質調達量が45%、一般木質等が52%。一般木質等は海外燃料の比重が大きい。

燃料材価格のうち、未利用木質の針葉樹チップ価格は横ばいからわずかながら上昇傾向、一般木質の針葉樹チップ価格はわずかながら下落傾向となっている。

未利用木質バイオマス発電所の導入容量はほぼ横ばいで、FIT認定を受けたもののうち容量ベースで76%相当が既に導入済み。令和2年度に運転開始を予定している発電所の立地は近畿以東に多く、中国・九州は一段落した。これらの発電所のうち使用燃料の内訳が明らかにされているものを見る限りでは、海外燃料がメインとなっている。

6. 木材輸出の動向（資料6）

2019年の木材輸出総量は、丸太は前年並みの113万3千 m^3 （-0.3%）、。製材は15万 m^3 で（+0.2%）、合板は11万6千 m^3 （-8.9%）となった。

輸出総額は346億円で前年比1.3%の減となった。国別には、中国は前年比0.7%減の159.7億円で全体の46.1%を占める。第2位のフィリピンは6.4%減で74.3億円、第3位の韓国は9.8%減で29.2億円、第4位の米国は3年連続の増加で7.9%増の27億円となった。

最大の輸出相手先である中国については、欧州からの虫害木の大量流入、新型コロナウイルス感染拡大の影響による滞船や船運賃の高騰、経済の停滞などにより、2020年の日本からの輸出はかなり落ち込むのではないかと見られる。

7. 紙パルプ産業の需給動向（資料7）

紙・板紙の国内出荷は、紙、板紙共に引き続き減少となった。紙は、主力の新聞用紙、印刷情報用紙の減少、板紙は、青果物や飲料向け、電気製品等の輸出向けの段ボールの減少が影響した。生産は紙・板紙共に需要減をうけての減少、パルプの生産も紙の生産減の影響を受け減少した。

古紙の輸出は、米中の貿易問題による中国の景気低迷と環境規制による輸入ライセンス発給減により大幅に減少。

パルプ材の集荷は、針葉樹、広葉樹共に減少したが、広葉樹の国産材は災害木や支障木等の集荷もあり増加した。輸入材は、SOx規制等による燃料油の価格上昇から、チリ、ブラジル等の遠隔地からのものの競争力が低下。比較的安価なベトナム材が大幅増となった。

8. 国産材に関する動向（資料8）

2月上旬の森連共販所平均価格は、スギ柱用材が11,600円（前月比100円/ m^2 安）、同中目材は11,500円（前月比300円/ m^2 安）。ヒノキ柱用材が15,800円（前月比600円/ m^2 安）、同中目材は15,600円（前月比300円/ m^2 安）となった。

積雪量少なく好調な出材を維持している。

スギ、ヒノキは不足感が無く弱含みの相場。カラマツは価格も堅調に推移している。

国産製材品の需要動向に先行き不透明感があり軟調に転じる声が多い。プレカット工場は仕事量が徐々に減少傾向に転じている。

暖冬により全国的に出材好調で推移しているが、相場は小安くなる予想。バイオマス用原木は地域により競争が激しくなった。

9. 国産材丸太（製材用）の需要動向（資料10 - P1）

2019年第4四半期の実績は、暖冬で順調な出材が続き、国産材の入荷に大きな変動はなかった。原木の需要については、木質バイオマス需要が引き続き増加しているものの、製材用材については大きな変動は無く、前年同期比並みの実績となった。

2020年第1四半期の見込みは、コロナウィルスの影響で、輸出梱包材等の需要が減少、また、中国からの住設・金物等の輸入停滞による住宅等の完成引渡の遅れなど直接の影響が発生しており、大幅に減少すると予測。前期比、前年同期比共に減少の見込み。

第2四半期以降は、コロナウィルスの影響による、春需掘り起こしのための営業活動停止や消費マインドの冷え込みなどの状況が大きく作用すると予測するが、収束の動きが見えない中、見通しが困難な状況。リーマンショックの翌年と同程度の需要を想定し、前期比、前年同期比共に減少すると見通す。

住宅等の引渡の遅れによる資金繰りの悪化、上海港など物流のハブ拠点での貨物の滞留、梱包・パレット材の需要減少等、今後のコロナウィルスの影響に注視。

10. 国産材丸太（合板用）の需要動向（資料10 - P1）

2019年第4四半期の実績は、住宅着工は減少したものの構造用合板の需要は堅調、輸入合板の急速な減少傾向、フロア台板等国産合板の需要増大、型枠用合板・中層大規模建築用の需要も漸増傾向である一方、南洋材合板等に関する違法伐採等の環境問題やサバ州の丸太輸出禁止も継続されているところであるが、合板工場の新設、設備投資（三重、大分、山梨工場等）による生産能力、効率アップ等により、前年同期比で増加となった。

2020年第1四半期は、前期と同様の要因により、前年同期比並みとなる見込み。

第2四半期は、住宅着工の減少により需要は低調と予測。コロナウィルスの影響も出てくると予想され、前年同期比で減少の見通し。

第3四半期は、新設工場の本格稼働や中層・大規模建築（非住宅）の需要が増大傾向にあることもあり、前年同期比で増加の見通し。

国内外のコロナウィルス感染防止対策等による住宅着工等への影響、トラック輸送の確保等に注視。

11. 米材丸太の需要動向（資料10 - P2）

2019年第4四半期の実績は、昨年の大手国内挽き製材工場の廃業の影響及び消費税増税による大幅な需要落ち込みが想定されたが、前期並みの実績となった。前年同期比では減少した。

2020年第1四半期は、カナダ林産最大手が昨年末よりすべての伐採を中止しており、北米産地からの供給量は大幅に減少する見通し。また、コロナウィルスの影響により住宅需要も予想以上に落ち込んでいるが、米材丸太需要は今年の住宅着工の落ち込みと同程度の水準で推移すると予測。前期比、前年同期比共に減少の見通し。

第2四半期は、本来は夏場の需要期に向かうが、第1四半期並みの需要と予測。前年同期比は減少の見通し。コロナウィルスの終息、カナダ林産大手の再開等、需給共に非常に見通しづらい状況。

第3四半期は、夏場以降、産地からの供給が回復し、コロナウィルスも終息に向かっていると思われるので、経済全般、木材需要は回復に向かうと予測するが、五輪開催の有無如何で雰囲気は大きく変わり得る。。前期比、前年同期比共に増加の見通し。

コロナウィルスによる世界経済への影響に注視。

12. 米材製材品の需要動向（資料10 - P2）

2019年第4四半期の実績は、年末にかけて荷動きがよくなる時期ではあるが、消費税増税の影響により、若干需要が減少した。

2020年第1四半期は、BC州のストライキ解決が2月までかかり、入荷が減少、また、決算末在庫調整により受注が減少すると予想。前期比、前年同期比共に減少の見込み。中国からの住設機器の入荷が滞り、竣工受渡の遅延が見られる。

第2四半期は、京浜地区はオリンピック・パラリンピック期間の交通規制により物流に支障を来すため、

前倒しでの出荷が増えると予想。前年同期並みの見通し。

第3四半期は、7～8月の首都圏交通規制により港からの出荷が停滞する。前年同期比で減少の見通し。

13. 北洋材丸太の需要動向（資料10 - P4）

2019年第4四半期の実績は、予想を上回る入荷があり需要も増加したが、前年同期比では2千m³の減少となった。

2020年第1四半期は、年初よりコロナウィルスの問題で経済が停滞するムードがあり、前年同期比で20%減の20千m³の見込み。

第2四半期は、季節的には出材が増加する時期ではあるが、住宅着工の減少予想やコロナウィルスの経済への影響など不透明な部分が多く期待できない。前年同期比22%減の見通し。

第3四半期は、国産材へのシフトが継続すると予想し、前年同期比で20%減の見通し。

14. ニュージーランド・チリ材 需要動向（資料10 - P5）

(1) ニュージーランド材丸太の需要について

2019年第4四半期の実績は、米中問題の影響で中国を含むアジア向け輸出梱包需要の下落、また、国産スギ製品に市場を奪われていることにより消費が予想以上に落ち込み前期より減少。前年同期比でも大幅に減少した。

2020年第1四半期は、コロナウィルスの影響により貿易・物流が激減、国内のウィルス対策により需要も悪化し、前期を下回る見込み。前年同期比でも大幅に減少の見込み。

第2四半期は、コロナウィルスが沈静化に向かうと予想するも、決算後の低需要期、長期連休等も相まって回復の足取りは重いと予測。前期より増加するも前年同期比では大幅に減少の見通し。

第3四半期は、各国とも上半期のGDP減を挽回すべく積極的に経済対策を打ち出し、需要は上向いていくと予測。下記の低需要期だが、前期を上回る程度には回復する見通し。前年同期比では減少の見通し。

(2) ニュージーランド・チリ材製材品の需要について

2019年第4四半期の実績は、米中の貿易問題の影響で中国を含むアジア向け輸出梱包需要が減少したため、前期比、前年同期比で減少した。

2020年第1四半期は、3月末の決算を控えた最終需要家(大手企業)からの梱包・パレット需要が伸びる繁忙期であるが、コロナウィルスの影響により貿易・物流にブレーキがかかり需要が減少すると見込む。また、チリ製材品が約3ヶ月の在庫となり解消は第2四半期にずれ込む見込み。前年同期比でも大幅に減少。

第2四半期は、コロナウィルスが沈静化に向かい、反動で梱包・パレット需要は上向くが、回復の足取りは重いと予測する。前年同期比でも減少の見通し。

第3四半期は、各国とも上半期のGDP減を挽回すべく積極的に経済対策を打ち出し、需要は上向いていくと予想。夏場の低需要期だが、前期を上回る程度には回復する見通し。前年同期比でも増加。

15. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向

(1) 米材丸太の供給について（資料10 - P2）

2019年第4四半期の実績は、カナダ最大手の伐採停止もあり入荷量は減ったが、予想していた数量を少し上回る入荷となった。前年同期比では若干減少。

2020年第1、第2四半期は、引き続きカナダ最大手の伐採停止により入荷数量は少ないと予想。前年度比大幅減の見込み。

第3四半期は、カナダ最大手の出荷が再開されていると思われる。夏場でファイヤークロージャーの影響等も懸念されるが、可能な限りサプライヤーも供給すると予測する。前年同期比で増加の見通し。

(2) 米材製材品の供給について（資料10 - P2）

2019年第4四半期の実績は、SPFや米マツが安定入荷した反面、カナダ製材会社のストライキにより

特に米ツガが大幅に減少。前期、前年同期比共に減少。

2020年第1四半期は、SPFについては価格、入荷等も安定。米ツガはカナダ製材会社のストライキは終結したものの、生産体制を整えるのに時間がかかることから、数量の回復は期待できず入荷は少量と予想。前年同期並みの見込み。

第2四半期は、SPF 需要期で、カナダ製材会社の供給再開効果を期待するも、本年の住宅着工需要が不透明でありコロナウィルスの影響もあると予測し、前年同期比で減少の見通し。

第3四半期は、本年度住宅着工需要が不透明であり当用買い傾向で入荷は伸びないと予測。東京以外の都市需要を期待。前年同期比は減少の見通し。

(3) 欧州材製材品の供給について (資料10 - P2)

2019年第4四半期の実績は、消費税増税後の効果は先行き不透明感があり買い控えたことから、入荷は前年同期比で減少した。

2020年第1四半期は、フィンランドの大手企業のストライキや暖冬の影響を受け入荷が減少し、前年同期比で減少の見込み。

第2四半期は、本年度の住宅着工需要が不透明で買い控えると予想。コロナウィルスやフィンランドの大手企業のストライキの影響もあり、前年同期比で減少の見込み。

第3四半期も、住宅着工需要不透明感で買い控えの予想。また、オリンピック・パラリンピック期間の交通規制、入港規制等の影響も受けると予測し、前年同期比で減少の見通し。

(4) 北洋材丸太の供給について (資料10 - P4)

2019年第4四半期の実績は、ロシアの輸出関税が上がる前に船積みした模様。カナダ材の代替として手当てした会社もあり、前年同期比で増加した。

2020年第1四半期は、ロシアの輸出関税が60%となったが、特恵枠もあり時期的には数量は出てくると予想。前年同期並みの見込み。

第2四半期も、前期同様、ある程度の数量は出てくるものと予測。前期比では増加の見通しだが、配船が集中した前年同期比では減少の見通し。

第3四半期は、昨年の第2四半期は配船が集中し、第3四半期は入荷が減少したが、本年はそのようなことはなく各期とも同程度の入荷を予測する。前年同期比では増加の見通し。

(5) 北洋材製材品の供給について (資料10 - P4)

2019年第4四半期の実績は、暖冬で1ヶ月くらい材の搬出が遅れているが、ほぼ前年同期並みとなった。

2020年第1四半期は、暖冬の影響により1月、2月は入荷が減少。3月は入荷が増加すると予想する。ほぼ前年同期比並みの見込み。

第2四半期は、冬季期間が短いと5月以降入荷が減少すると予測するが、前年同期並みの見通し。

第3四半期は、高値で推移すると思われるが、住宅着工の動向も不透明なことから入荷量は抑え気味と予測。前年同期比で減少の見通し。

コロナウィルスの影響に関しては、ロシアから中国向けの出荷動向について注視。

(6) 輸入構造用集成材の供給について (資料10 - P7)

2019年第4四半期の実績は、市況が回復し入荷量も回復したことから前年同期比で増加となった。

2020年第1四半期は、市況は回復。フィンランドの大手企業ストライキの影響で1月の入荷が減少したが、前年同期比では若干増加の見通し。

第2四半期は、フィンランドの大手企業ストライキの影響で出荷が遅延、コロナウィルスの影響もあり入荷は減少すると予測。前年同期比で減少の見通し。

第3四半期は、住宅着工需要不透明感で買い控えの予想。また、オリンピック・パラリンピック期間の交通規制、入港規制等の影響も受けると予想する。前年同期比で減少の見通し。

16. ニュージーランド・チリ材の供給動向（資料10 - P5）

(1) ニュージーランド・チリ材丸太の供給について

2019年第4四半期の実績は、ほぼ需要に見合う入荷があったが前期より減少。前年同期比でも減少した。

2020年第1四半期以降は、中国経済の減速等で梱包材の需要が減っていることは明らかであり、コロナウィルスの影響も間違いなく出ているが、実態社会にどの程度影響しているかわからず、需要に未ある当用買いに徹すると予想し、前年同期比で大幅に減少の見通し。

(2) ニュージーランド・チリ材製材品の供給について

2019年第4四半期の実績は、米中の貿易問題の影響による輸出梱包の低迷を受け、NZ・チリ材港頭在庫増により買付数量が低調となった結果、入荷減となった。前期比、前年同期比共に減少となった。

2020年第1四半期は、前年第3、第4四半期において買付減、入港減となったことから、一時的に買付量を増やしたため前期より増加するが、前年同期比では減少の見込み。

第2四半期は、コロナウィルスの影響により3月、4月積みの買付数量が激減、入港減となり、前期比、前年同期比共に大幅減の見通し。

第3四半期は、コロナウィルスも沈静化し、通常レベルの買付数量となる見通し。前年同期は数量調整のため入荷が少なかったことから、比較すると増加。なお、2020年の年間入荷量は前年に比べ減少すると予測（360千m³）。

17. 南洋材丸太（製材用）、南洋材製材品の需要動向（資料10 - P3）

(1) 南洋材丸太（製材用）の需要について

2019年第4四半期の実績は、中国における需要が引き続き弱く、輸出用梱包材を中心に低調であった。前年同期比で減少した。

2020年第1四半期は、例年、年度末にかけて需要があるが、国内・輸出用とも需要環境が悪く、前年同期比で大幅減の見込み。

第2四半期は、引き続き米中の貿易問題の影響、また、コロナウィルスの影響等によりアジア圏の需要が減少すると予想。新年度に入るが国内・輸出用材の需要状況は不透明。前年同期比で若干減少の見通し。

第3四半期は、輸出用材は厳しい状況が続き、また、国内需要もオリンピック・パラリンピックの時期に当たるため減少すると予想。前年同期比で減少の見通し。

国産材利用推進などもあり、南洋材丸太需要は年々減少傾向。

(2) 南洋材製材品の需要について

2019年第4四半期の実績は、増税後の10月以降もオリンピック・パラリンピック関連施設や商業施設などの需要があったが12月に入り一服感が出始め荷動きが停滞した。前年同期比で若干減少となった。

2020年第1四半期は、コロナウィルスの発生による先行き不透明感から、需要は前年同期比で減少の見込み。

2020年第2四半期は、新年度に入るも、住宅需要は引き続き抑えられ、実需減。民間の台風被害修繕工事は見込めると予想。前年同期並みの見通し。

第3四半期は、オリンピック・パラリンピック開催時期になるため、首都圏での建築工事関係も控えられ、流通関係も厳しい状況と予想される。前年同期比で減少の見通し。

18. 南洋材丸太（合板用）の需要動向（資料10 - P3）

2019年第4四半期の実績は、針葉樹合板へのシフトの進行、産地価格の高止まり、産地のインド、中国市場等へのシフト、産地の違法伐採対策等環境問題の影響増大、サバ州の丸太輸出禁止の継続、インドネシア、サバ州からの単板輸入の増加等により、前期比、前年同期比で減少した。

2020年第1四半期は、前期と同様の要因により、前年同期比で減少の見込み。なお、パプアニューギニアからの丸太輸入は安定確保の見込み。

2020年第2四半期以降は、前期と同様の要因のほか、パプアニューギニアの輸出税増税の話も聞こえており、前年同期比で減少の見通し。

19. 国産、輸入合板の需要動向（資料10 - P6）

(1) 国内製造合板の需要について

2019年第4四半期の実績は、稼働日数が多く新工場分の上乗せもあり生産は2019年のピークとなった。トラック（運転手）の確保難、駆け込み需要の反動減等がマイナスに働いたものの、プレカット工場等の旺盛な需要状況から、前年同期比で増加となった。

2020年第1四半期は、年度内着工を目指す需要や非住宅の木造化の進展も見られ、針葉樹構造用の部位や用途の拡大が続くと予想していたが、2月以降、市況の軟化とコロナウィルスの影響が出始めたため、前年同期比で減少の見込み。

第2四半期は、非住宅において木造化拡大への政策支援効果は昨年以上に進展すると思われるが、コロナウィルスの影響による住設機器や造作の受注止めにより、需要は大きく減少すると予想。前年同期比で減少の見通し。

第3四半期は、コロナウィルスの影響が計り知れない中、回復予想が見通しづらい。前年同期比で減少の見通し。

(2) 輸入合板の需要について

2019年第4四半期は、輸入元においては、消費増税駆け込み需要等による在庫の回転と価格底入れに伴い新規契約の手当が進み供給増加となった。需要は、構造用合板の引き合いは比較的強く、前期比で8%程度の増加となったが、前年同期比では減少した。

2020年第1四半期は、南洋材丸太の規制、国内合板や他材料への転換が大きく進んだことにより、輸入合板の国内での供給・需要の比率は大きく低下。コロナウィルスの影響も加わるため、前年同期比で減少の見込み。

第2四半期は、船舶のSOx規制による経費コストの価格への反映や、海上コンテナの3分の1が中国の港経由である状況のもと、コンテナの調達にもコロナウィルスの影響が出て厳しい状況が続くと予想。前年同期比で減少の見通し。

第3四半期は、コロナウィルスの影響が計り知れない中、見通しづらいが輸入製品離れの進行に歯止めがかかる兆しは見えない。前年同期比で減少の見通し。

20. 南洋材、輸入合板の供給動向

(1) 南洋材丸太の供給について（資料10 - P3）

2019年第4四半期の実績は、十分な入荷があり需要は増加したものの、前年同期比で大幅に減少した。

2020年第1四半期は、すでに全国で手配済み、前期同様の入荷となる見込み。ほぼ需要に見合う入荷だが、前年同期比で減少の見込み。

第2、第3四半期は、2020年の年間入荷見込量（126千m³）の四半期平均並みと予想、前年の入荷量に波があったため、前年同期比で第2四半期は減少、第3四半期は増加の見通し。

パプアニューギニアが原木輸出禁止を公表しているが、国内加工化のインフラが整っておらず、実態は難しいとされている。今後の公式発表に注目。

(2) 南洋材製材品の供給について（資料10 - P3）

2019年第4四半期の実績は、ほぼ平均的な入荷となり、第3四半期並みの入荷があった。前年同期比では減少した。

2020年第1四半期は、コロナウィルスの影響により、中国より入荷するフリー板（南洋材全体の40%）が半減すると予想。前年同期比でも減少の見込み。

第2四半期は、コロナウィルスが沈静化し平均的な入荷水準に戻るものと予想。前期より回復するが、南洋材需要後退で前年同期比では減少の見通し。

第3四半期も、第2四半期と同程度の入荷と予想。前年同期比では減少の見通し。

(3) 輸入合板の供給について (資料10 - P6)

2019年第4四半期の実績は、米中の貿易問題の影響により輸出梱包用合板需要が低迷し、主にベトナム、中国合板の入荷が大幅に減少。全体的に需要低迷の状況で入荷は減少傾向。前年同期比で大幅な減少となった。

2020年第1四半期は、需要低迷が継続。特にコロナウィルスの影響による中国合板(LVL)が2月、3月は通常の半分程度まで落ち込むと予測。前年同期比で減少の見込み。

第2四半期は、住宅着工減による需要低迷にて全体的に入荷減傾向となると予測。コロナウィルスの影響が長引くと更なる減少幅拡大の可能性もある。前年同期比減少の見通し。

第3四半期は、オリンピック・パラリンピック関連により関東地区の物流は一時的に低迷すると予測。前年同期比で減少の見通し。

21. 国内製造合板の供給について (資料10 - P6)

2019年第4四半期の実績は、国内合板工場のフル稼働、輸入合板の大幅な減少傾向、フロア台板用国産材合板の需要増大見通し、設備投資(大分、山梨等)による国産材合板の生産能力、効率のアップ等の一方で、住宅着工の減少や働き方改革の影響もあったものの、前年同期比では増加した。

2020年第1四半期以降は、休暇やオリンピック等の影響により生産稼働日が少ないながらも、新設した工場の稼働の本格化等により、前年同期比で増加の見込み。

22. 国内製造構造用集成材の供給動向 (資料10 - P7)

2019年第4四半期、2020年第1四半期は、は、引き続き消費増税の駆け込み需要により、前年同期比で増加した。

第2四半期は、フィンランド国内のストライキによるラミナ生産への影響、コロナウィルスに起因する中国の物流の停滞によるラミナ用コンテナ不足等、ラミナ安定確保への不安から、大手メーカーで3割の減産を打ち出したところあり。他社も追随すると予想し、前年同期比で減少の見込み。

第3四半期は、コロナウィルスの経済への影響、オリンピック後の景気に対する不安感が懸念されるも、輸入ラミナ不足が解消の方向に進むと予測し、前期より増加すると見通す。前年同期比では減少。

コロナウィルスの影響により、中国で生産されているトイレ・キッチンなどの住設機器が入手困難となり、住宅に引渡等に深刻な影響が出ている。